

SBI グループ横断的な デジタルマーケティング基盤の構築

SBIホールディングス株式会社
社長室ビッグデータ担当
佐藤 市雄・谷岡 直登

SBI グループの紹介	01
SBI グループのデジタルマーケティングの軌跡	02
データ活用の民主化を目指して	03



佐藤 市雄 (Sato Ichio)

Deputy General Manager
CEO's Office (Big Data)
SBI Holdings, inc.

2007 年に SBI ホールディングスに新卒で入社し、2008 年には SBI ポイントユニオン株式会社(現 SBI ポイント株式会社)代表取締役就任。2012 年に SBI グループ横断的なデータ活用の CoE 組織として、現社長室ビッグデータ担当を設立し、現在までリーダーを務める。その他グループ事業会社の取締役を複数兼任。2022 年より一般社団法人金融データ活用推進協会の理事・企画出版委員長を務める。

01

SBI グループの紹介

SBI グループ概要

2022 年 12 月末現在

社名	: SBI ホールディングス株式会社
設立年月日	: 1999 年 7 月 8 日
代表者	: 北尾 吉孝
グループ会社	: 623 社(連結子会社 505 社)
従業員数	: 18,751 名(連結ベース)
顧客基盤	: 4,461.5 万件
本社所在地	: 東京都港区六本木一丁目 6 番 1 号 泉ガーデンタワー 19F



SBI ホールディングス 社長室ビッグデータ担当



社長室ビッグデータ担当



組織体制

企画担当	: 12 名
エンジニア	: 1 名
データサイエンティスト	: 17 名
出向者	: 3 名
事務	: 4 名

主な取り組み内容

データの収集・整備
分析基盤の構築
新規事業の検討
データ活用に向けた法的整備

データ分析・AI 開発
横断的なツールの検討・導入
外部企業との連携模索・推進

02

SBI グループの デジタルマーケティングの軌跡

Timeline

CoE 組織の設立

データ活用の CoE 組織として、現在の社長室ビッグデータ担当を設立

2012

2014

2016

2018

2020

ツール・計測の統合

グループ統合的なデータを収集を目的として、Google アナリティクスをはじめとしたツール・計測方針をグループで統一

DMP の形が完成

現在の Google マーケティングプラットフォームの各種サービスと、BigQuery を中心とした DMP が完成

AI活用への応用

Google の機械学習サービスや、外部で開発した AI を BigQuery と連携し、UX 向上・業務効率化へ

データ活用の民主化へ

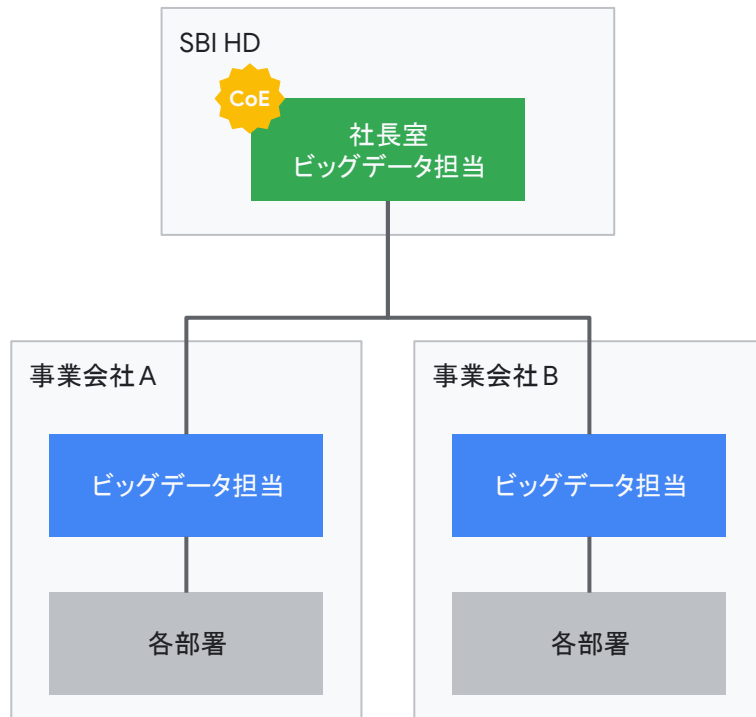
エンジニアだけでなく、ビジネス部門の担当者が自ら BigQuery を活用し、アドホックに分析する体制へ

CoE 組織の設立

CoE (Center of Excellence) : 横断的専門組織

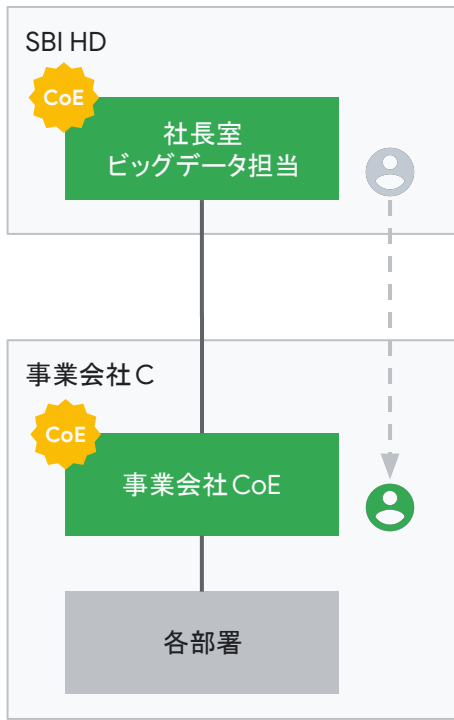
SBI グループのデータ活用の CoE の機能を持つ

SBIHD 社長室ビッグデータ担当 と、SBIHD 社長室ビッグデータ担当と事業会社をつなぐ組織として、各社に**ビッグデータ担当**を設置し、知見・ノウハウを集約・拡散



事業会社 CoE 組織への発展

事業会社の中にも CoE 組織を構築し、社長室ビッグデータ担当から人材出向やスキルトランスファーすることによって、**事業会社内部でデータ活用の推進・統括・各部署のサポートを完結**する体制へ発展





グループ横断的な “意思決定”

グループビッグデータ会議 × 13 times

各社の代表とボードメンバーが集まり、SBIグループとして、データ活用の方向性を意思決定

グループデータ活用推進会議 × 86 times

各社のビッグデータ担当が集まり、各社のデータ活用事例や、SBIグループの方針を共有



グループ横断的な “最適化”

グループ相互送客の最適化 × 7 years

BigQuery に集約された、グループ横断の顧客行動履歴データを活用し、相互送客施策を最適化

個別プロジェクト支援 × about 100 PJ

AI 活用・広告運用・UI / UX 等における各社・各種プロジェクトについて、個別のサポートや定例ミーティングを開催



グループ横断的な “ノウハウの拡散”

アクセス解析分科会 × 21 times

AB テスト分科会 × 10 times

EFO 分科会 × 7 times

SEO 分科会 × 5 times

WEB 接客分科会 × 2 times

Design Sprint × 1 times

BI 分科会 × 9 times

AI 分科会 × 19 times



ツールの統合・管理



導入数

74 サイト(アプリ)

イベント数/月

37 億



導入数

29 アプリ

イベント数/月

6.5 億



導入数

28 社(事業部)

インプレッション・クリック数/月

4 千万



計測の統合・管理

タグの一括管理

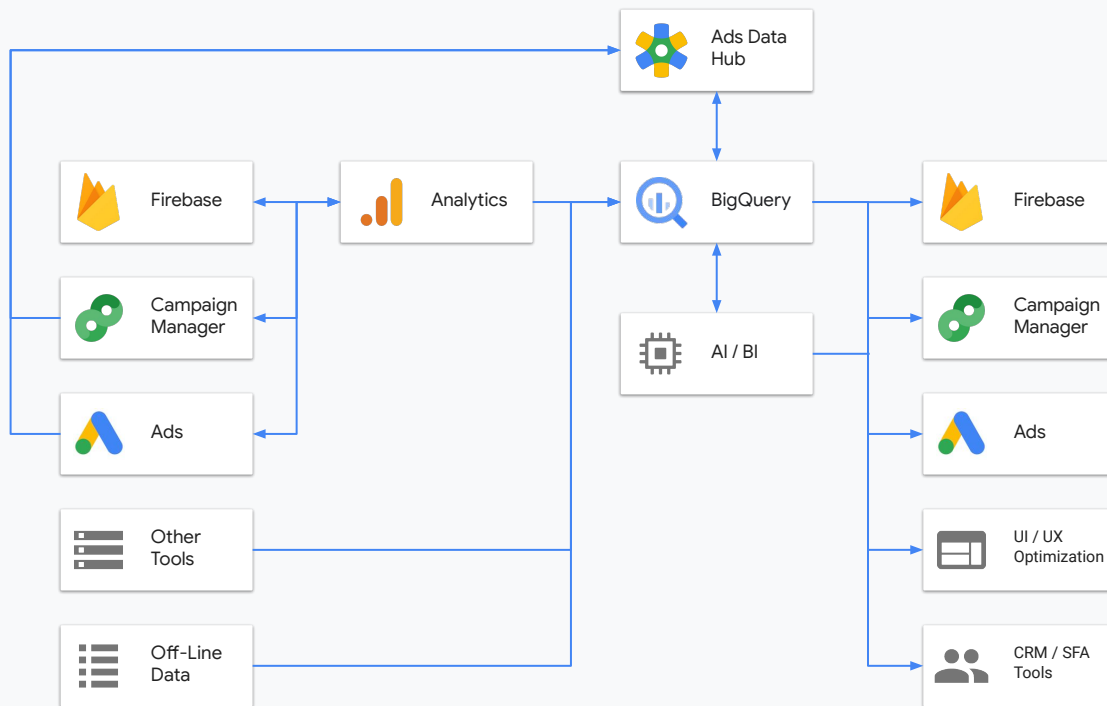
Google アナリティクスや Google 広告等のタグを各社が各々 HTML に直書きするのではなく、Google タグ マネージャーを活用し、SBIHD 社長室ビッグデータ担当がタグを一括管理をすることで、**各社がどのような計測・運用を行っているか、常に把握できる体制を作る**

計測内容の統合

グループ共通のタグの設置や、Google アナリティクスのカスタムイベント、ユーザー ID のカスタム計測等について、グループ共通のルールを設け、**グループ横断で共通化されたデータを収集する**

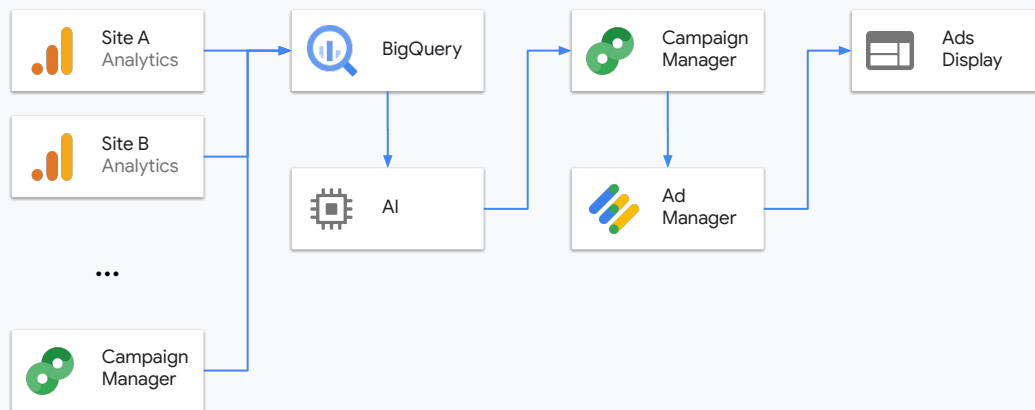
DMPの構築

オンライン・オフラインの
データの収集・分析・施策を end
to end で実施



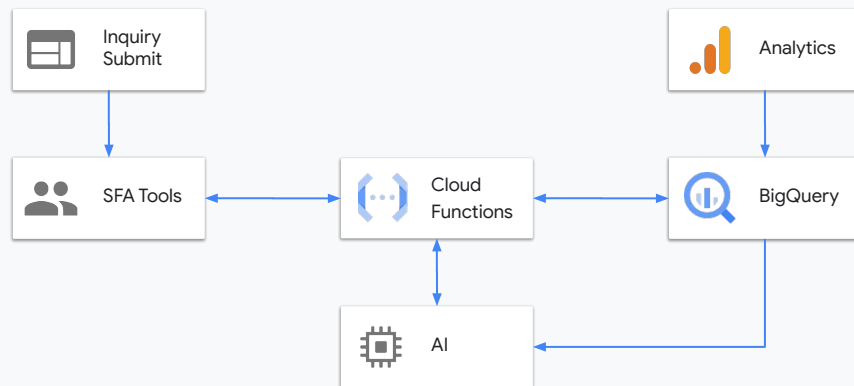
相互送客の最適化

BigQuery に集約された、顧客の
グループ横断の行動履歴 から、AI
で各顧客の最適なサービスを予
測し、グループ各社のサイト内広
告を顧客ごとに最適化



SFAツール連携

BigQuery に集約された、**顧客の
サイト内行動**から、**AI でオフライン
コンバージョンの確率を予測**し、
SFA ツールと連携することによっ
て、営業活動を効率化



03

データ活用の民主化を目指して



谷岡 直登 (Naoto Tanioka)

Assistant Manager
CEO's Office (Big Data)
SBI Holdings, inc.

2021 年に SBI ホールディングスに新卒で入社。
2022 年 1 月に SBI 証券マーケティング部に兼務出向し、データ分析業務に従事。同年 6 月に SBI 証券データマネジメント室に兼務し、データガバナンスの整備や分析基盤構築をはじめとしたデータ活用の民主化業務に従事。また同年 10 月には SBI 証券のアーキテクト推進部に兼務し、データ分析基盤の運用やクラウド移行業務に従事。



SBI証券

950 万
口座数

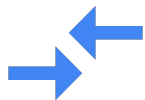
25 兆円
預かり資産

45 %
売買シェア
国内株式 委託個人

* 2023 年 2 月 7 日, 株式会社 SBI 証券, 決算説明資料より

膨大なデータ量を日々蓄積

取引履歴



1 億

トランザクション数/月

顧客属性



950 万

口座数

行動履歴



300 万

イベント数/日

接客履歴



1,000

接客バリエーション

データ活用の民主化に向けたタイムライン

高速 DWH と BI の導入

高速 DWH と BI ツールの導入により、業務生産性の向上を実現

BigQuery 環境の整備

BigQuery に Export されている Web サイト・アプリの行動履歴を活用するための環境を整備

2021



2022



2023



2024



行動履歴 × 取引履歴

顧客の Web サイト・アプリの行動履歴と、取引履歴を活用した、銘柄レコメンド施策を開始

データの一元管理

オンプレミス環境からクラウド環境への移行に併せて、サイロ化されていたシステムを統合的に管理していく

分析環境の改善

高速 DWH の構築

SSD による処理速度改善

BI ツールの導入

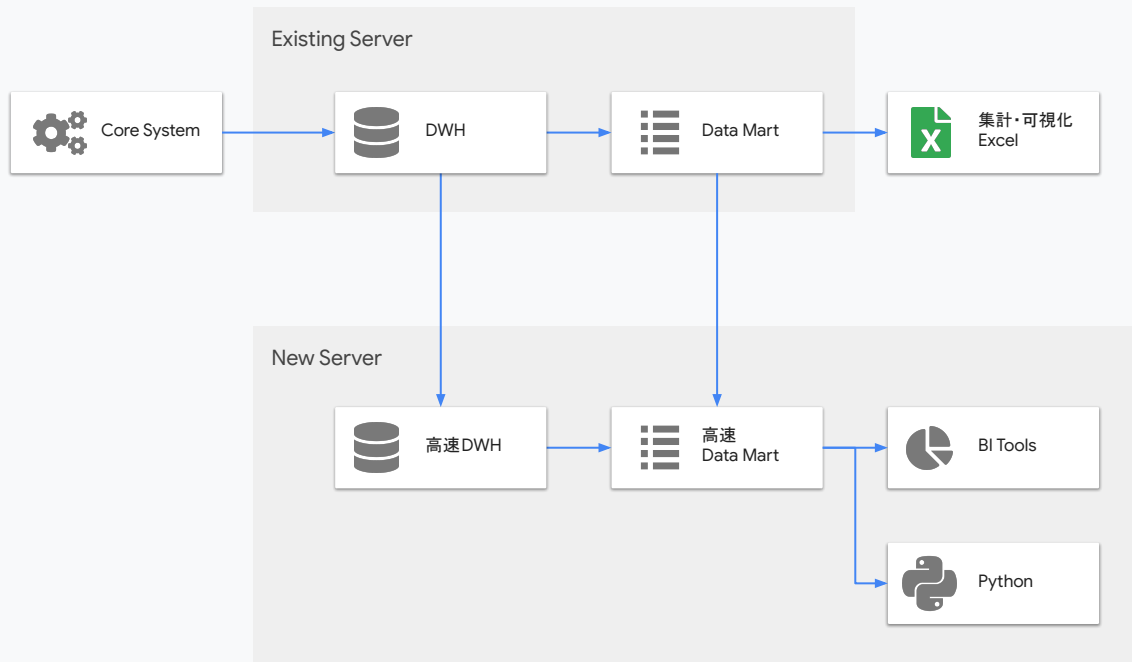
SQL ベースの BI ツールによる
可視化ステップ簡略化

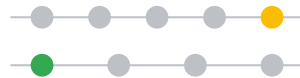
情報の集約

社員のローカル環境で乱立していた
Excel などを分析環境内に一元化

高度な分析

Python 実行環境の構築による
分析内容の高度化





- 01 | 可視化までの時間が短縮されたことによる、**PDCA
サイクルの高速化**
- 02 | データへのアクセスが容易になったことにより、**担当者
自らが探索的にデータを見る**ようになった
- 03 | データ取得・可視化が容易になったことにより、**ビジネス
部門のデータスキル向上**



BI ツールの活用状況

ユーザー数



130

クエリ数



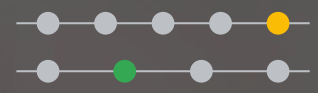
3,000

ダッシュボード数



100

* 導入から約2年での実績



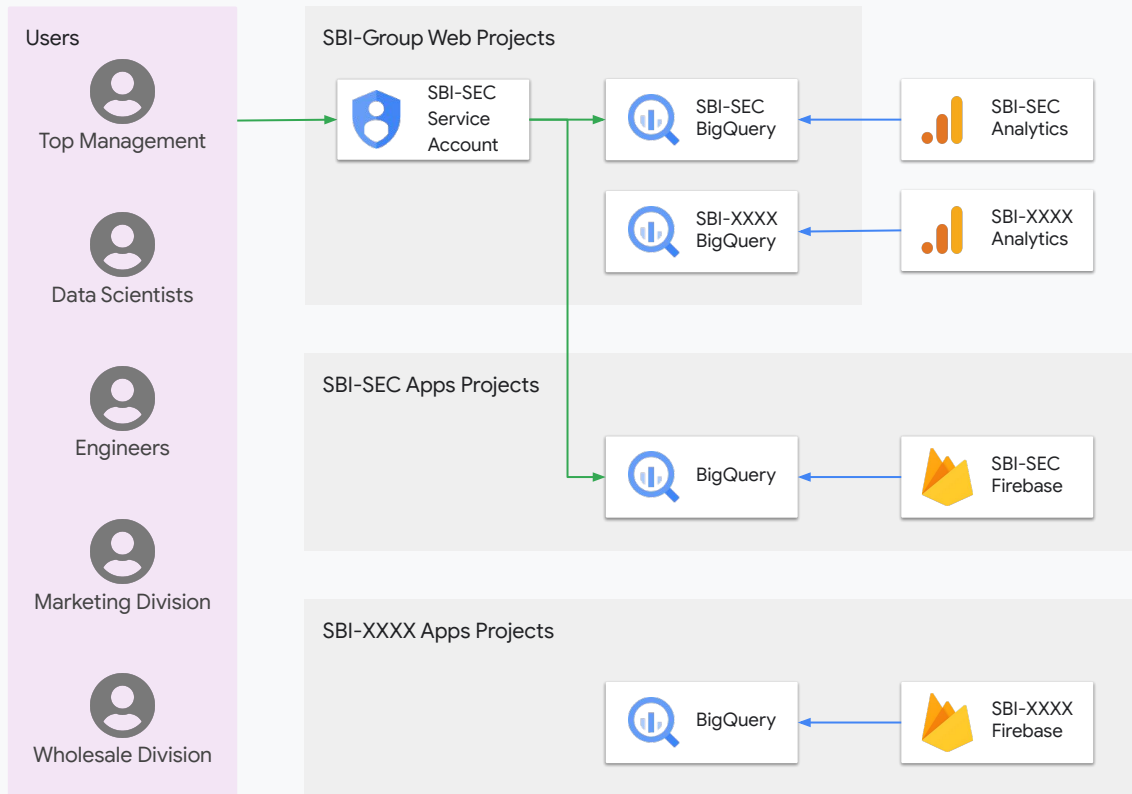
行動履歴 × 取引履歴によるレコメンド



BigQuery を ビジネス部門でも

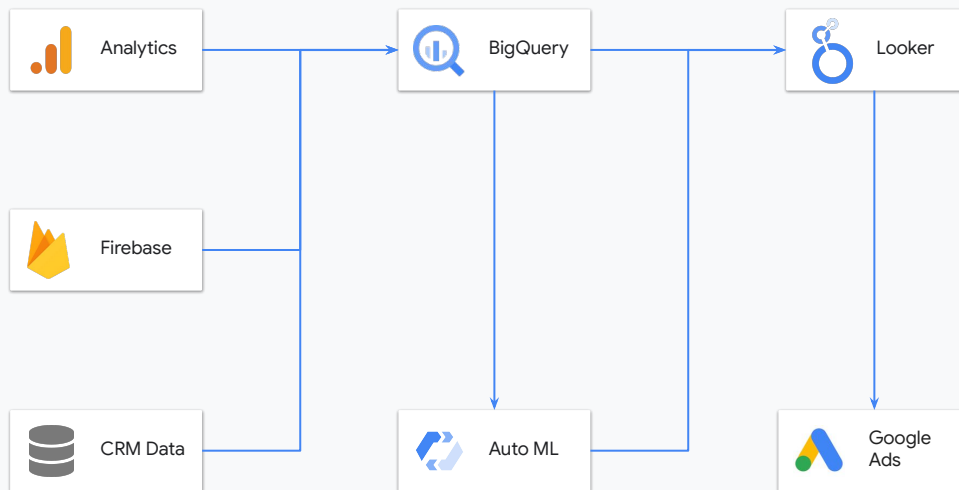
現状の DMP を考慮した SBI 証券
のサービスアカウントを作成

SBI 証券のデータサイエンティスト
やエンジニアのみならず、ビジネス
部門も活用する体制を構築



行動履歴の活用 高度化

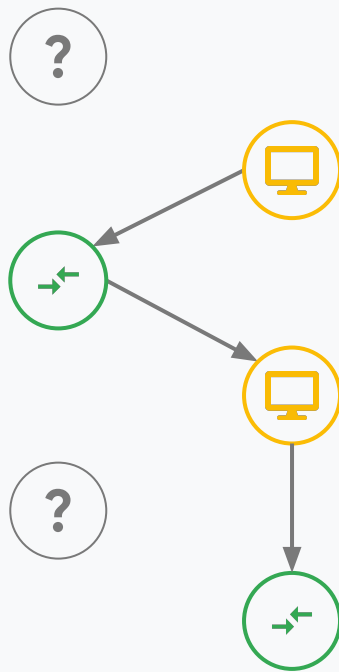
Google Analytics や Firebase で計測した行動履歴と、顧客の取引履歴を BigQuery に連携することで、Web / App、取引履歴を横断した広告配信の最適化を目指す



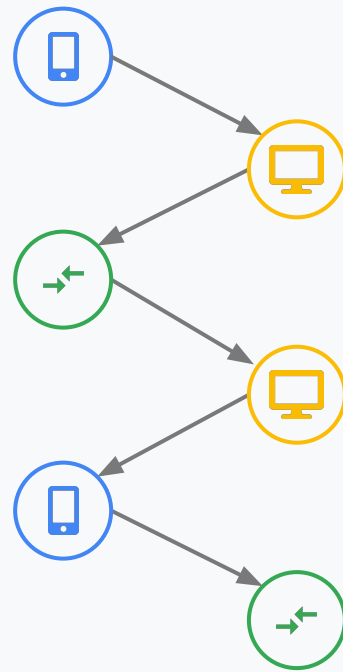
データの一元管理

ユーザー単位で Web / App 上の
行動履歴と取引履歴を紐づけ、
ユーザーの行動を一元管理できる
仕組みを構築し、**より顧客に沿っ
たマーケティング施策**の実行を目
指す

As Is



To Be





Organization



Data

Google Cloud

Platform



Thank you.